

水害に備えて水防訓練実施



▲ 指導員から工法を教わる市職員

▶ 土のう袋に土を詰める参加者

梅雨入りを前に、6月2日、川口市民運動公園で市消防団、市役所、消防本部、京都市消防局航空隊が合同で水防訓練を行いました。総勢約150人の参加者は堤防の決壊など最悪の事態を想定し、訓練に励んでいました。

この訓練は水難被害から住民の生命、身体および財産を守るため、水防工法の基礎的技術を習得するとともに、水防体制の強化を図ることを目的にしています。



救助物資を受け取りに行く消防署員

救援物資搬送も

訓練開始の号令がかかるのと、6小隊に分かれた参加者は一斉にスコップで土のう袋に土を詰め始めました。出来上がった土のうの水の流れに沿って積み上げ、水が堤防を越えるのを防ぐ「積み土のう工法」や噴水個所を囲むように積み上げて漏水を防ぐ「釜段工法」を実践しました。

ほかにも、京都市消防局航空隊による救援物資搬送訓練も行われました。



赤ちゃんうっとりママにっこり

絆強めるベビーマッサージ

ベビーマッサージ講師の大隣知子さんを招いた子育て講座が6月8日、子育て支援センターで行われました。参加した11組の親子連れはマッサージを通じて親子の絆を強めました。

この講座は、子育てをより良いものにしようと同センターが開催。今回、赤ちゃんの心や体の発育に効果的と言われるベビーマッサージを初めて企画しました。

大隣さんは「赤ちゃんの機嫌がいい時にお母さんも楽し

みながらマッサージしてあげて」と話しながら実演。お母さんたちが声掛けしたり、歌を歌いながら、オイルを塗り込んだ手のひらで、赤ちゃんの太ももやお腹などを優しく撫でたり、揉んだりすると、赤ちゃんはうっとりとした気持ちよさそうな笑顔をみせていました。

欽明台在住の田中真理子さんは「子どももリラックスしてくれていたの、また家でもやってあげたい」と大満足でした。



赤ちゃんに話し掛けながらマッサージするお母さん

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

泥水が分離する様子を見つめる見学者たち



水道の大切さ学ぼう

美濃山高区配水場で初の見学会

6月3日、欽明台地域などに水を供給している美濃山高区配水場で施設見学会を開催しました。247人が訪れ、毎日の生活に欠かせない水道の大切さを学びました。

同見学会は市水道工務課が水道週間(6月1日〜7日)に合わせて、水道への理解を深めていただくこと、初めて実施しました。

配水場では、ポンプ室などの公開や職員による水道や施設に関する説明会に加え、東日本大震災時に支援に使った給水車や当時の被災地の写真を展示。

また、水の浄化作業を実演する模擬実験コーナーも設けられ、見学者は泥水が透明な水と茶色の土などに分離する様子を見入っていました。

親子で訪れた欽明台在住の穴戸くるみさん(7)、楓ちゃん(2)は「配水場に初めて入って楽しかった。水がきれいになる様子は不思議だった」と笑顔で話していました。

第14回佐藤康光杯 215人 盤上で腕競う

八幡市出身のプロ棋士、佐藤康光王将を迎えた「第14回佐藤康光杯争奪将棋大会」が6月17日、市文化センターで開催されました。

会場には、近畿地方をはじめ、東京などからも駆け付けた、5〜79歳の将棋愛好家たち215人が集まりました。参加者は二段以上のA級など4階級に分かれ、腕を競いました。

開会式のあいさつで佐藤王将は「普段培った実力を十二分に発揮していただき、楽しい一日を過ごして下さい」と

と参加者を激励されました。A〜C級の対局を見て回った後、小学生以下の初級者17人を相手に一度に対局する多面指しを行った佐藤王将は、勝負が決まると、対局を振り返りながら、良かった点などを丁寧にアドバイスされていました。

指導を受けた三重県在住の大村一華さん(7)は「佐藤王将は強かった。アドバイスを生かして将棋に取り組みたい」と話していました。



子どもたちと対局する佐藤康光王将